



ひきこもり事業

一般社団法人ルミナス

一般社団法人ルミナス

令和2年7月29日設立

所在地：静岡県伊豆市堀切1004番地の151

**当法人は、「様々な困りごとを抱えた人々に対して、市民のネットワーク及び当法人の社員による
伴走型支援を提供することを通じて、生きることの喜びを分かち合える、持続可能な相互扶助の社会
を作ること」を目的とし、その目的を資するための事業を行う。**

理 念

誰もが輝く(ルミナス)ことができる場所に繋げる

コンセプト

ダイバーシティ(Diversity-多様性) 差別のない処遇を実現する場所

私たちが大切にすることは繋がりです。一人ひとりはその点ですが、繋がって行き来すれば直線がいくつも出来ています。それは、無限に広がり円を作ります。その中では老いも若きも障害が有る者も健常者も「ごちゃまぜ」です。ここに集う仲間・ここを基盤とし活動する団体はその「ごちゃまぜ」に柔軟に対応しながら、未来を後押しするのです。

手を差し伸べる企業・他団体・支援機関などに円から飛び立とうとする者を繋げることを最終目的とします。

代表理事プロフィール

尾朝健太郎

一般社団法人ルミナス 代表理事

資格:社会福祉士:7年

職歴:社会福祉協議会地域福祉課 勤務
NPO法人青少年就労支援ネットワーク静岡 勤務
就労支援員:5年
生活困窮者自立支援業務:5年
精神保健福祉センターひきこもり事業:5年
学習支援事業:5年

自らの辛い引きこもりの経験から、社会福祉士を目指しました。今、社会に出たくても出れない過去の自分のような人達に勇気や希望、夢を持てるようになって欲しいと強く思います。「支援者」「被支援者」の垣根を取り外し、『仲間』として共に寄り添い共に、笑顔で喜びあえるような関係を作ってきました。たくさんのお出会いの中で、その人に合ったオーダーメイドの支援をしなくてはならないと思ったのです。思いを同じように持つボランティアの仲間と地域の人達と共に「相互扶助」の社会をつかっていきたいと思っています。

引きこもりとは

基本的に長期間自宅から出ることができないでいる状態のこと。

厚生労働省の定義では、単一の疾患や障害の概念ではなく、「さまざまな要因によって社会的な参加の場面が狭まり、就労や就学などの自宅以外での生活の場が長期にわたって失われている状態」とされています。

厚生労働省が岡山大学に委託した調査結果によれば、引きこもりの子がいる家庭は少なくとも全国で41万世帯にのぼります。また医療機関等の統計では男性が7-8割を占めるとの結果がでています。

引きこもりには、統合失調症などの精神疾患や学習障害や発達障害などにより周囲との摩擦が生じて引きこもる場合と、そういった疾患や障害などの生物学的な要因が原因とは考えにくい場合があります。後者は対人関係や心的外傷などが引き金となり、社会参加が難しくなってしまったもので、

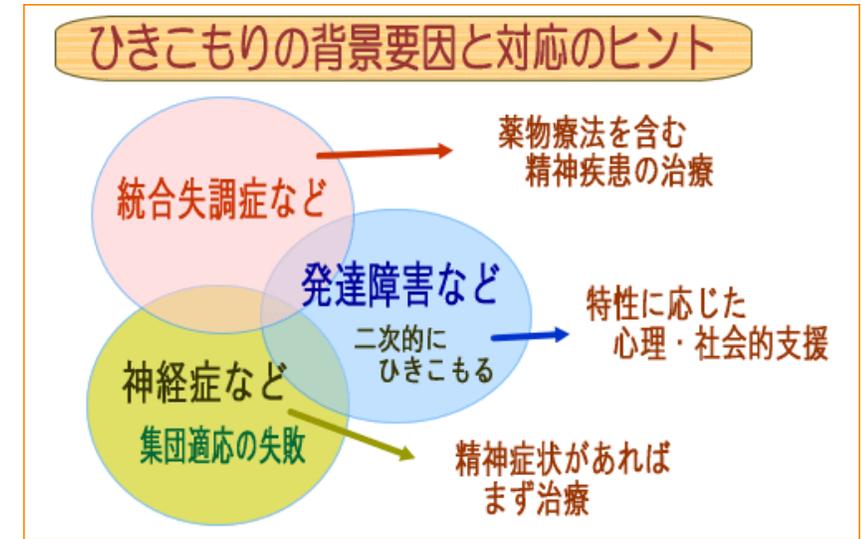
「社会的ひきこもり」と呼ばれることもあります。

引きこもりの人々の様相は多彩ですが、引きこもりが長期化するのには、生物学的側面、心理的側面、社会的側面から複数の要因が混在しています。

厚生労働省では、「引きこもり」を精神保健福祉の対象とし、平成15年に援助活動や福祉サービスの他NPOなど支援施設による様々な施策のための『「ひきこもり」対応ガイドライン』を策定しています。

引きこもりの原因と背景

- ひきこもりは1つの原因で起こっているわけではありません。
- ひきこもりになったときに何か特定の出来事があったとしても、それは原因ではなく、きっかけにすぎないこともあります。
- ご本人は様々なことに悩んでいます。
- 特定の精神疾患や発達障がいがある場合があります。
- ひきこもりは、本人にとっても非常にストレスがかかる状況であり、そこからさまざまな精神疾患が二次的に生じることがあります。



現状

(1) 基礎情報

1. 現在のひきこもり状態の有無

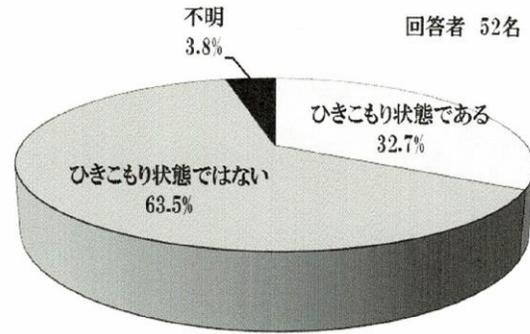


図1-1 ひきこもり状態の有無(現在)

4. 性別

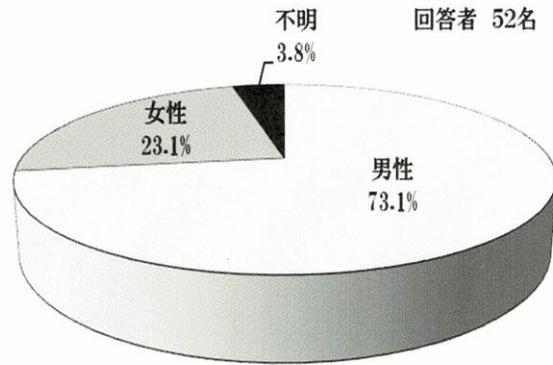
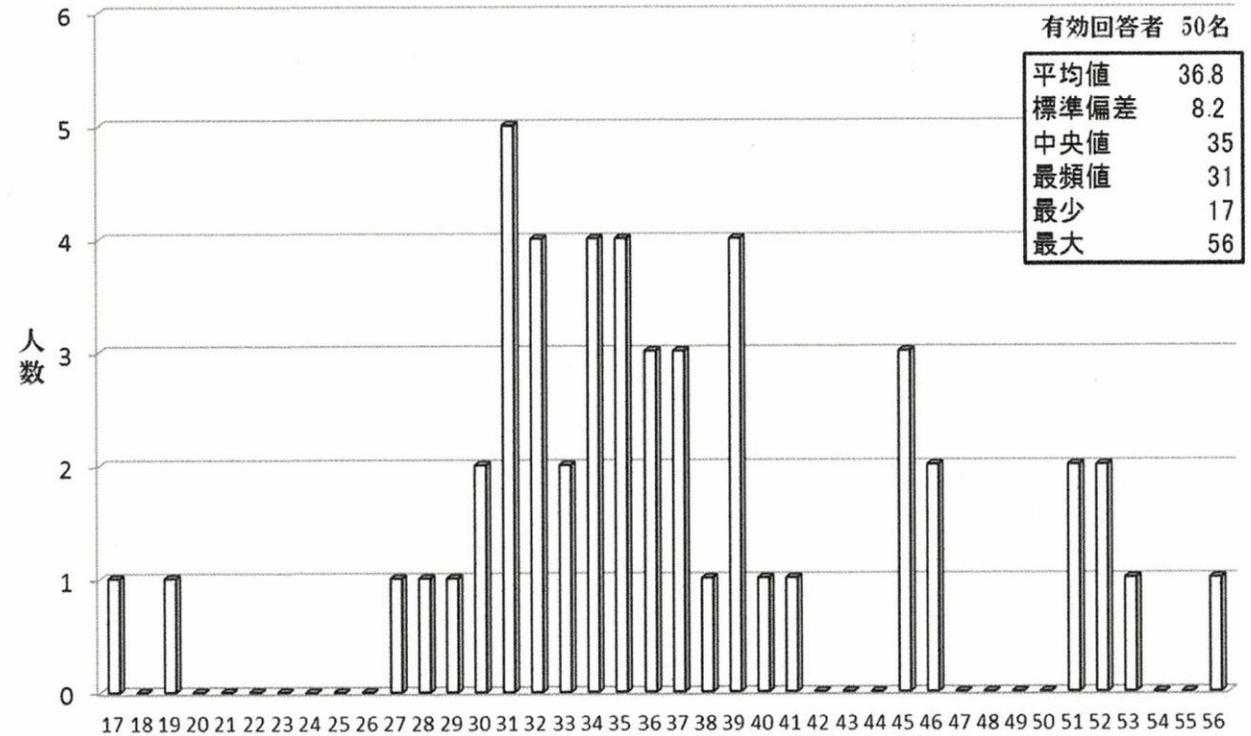


図1-4 本人回答者の性別

3. 年齢



事業の目的

不登校、引きこもり状態にある、当事者は引きこもりながらも

「このままではいけない。」「孤独はもう嫌だ。」「社会参加したいが勇気が無い。」と苦しんでいる方がほとんどです。

また、当事者の親御さんは、「自分たちが亡き後、この子はどうなってしまうのだろう。」との思いは切実です。

私たちは不登校・引きこもりの状態から自立に向けて、

伴走型支援という方法を用い問題解決に向けて支援していきます。

支援方法

1、伴走型支援

様々な理由から不登校、引きこもり状態になってしまった当事者の伴走者となり、対話をし、問題解決に向けて二人三脚で一緒に戦っていきます。

2、フリースペース・居場所の設置

ニート・ひきこもりから社会へと繋がるステップとしてご利用いただければ幸いです。

3、当人、又はそのご両親、関係者の無料相談

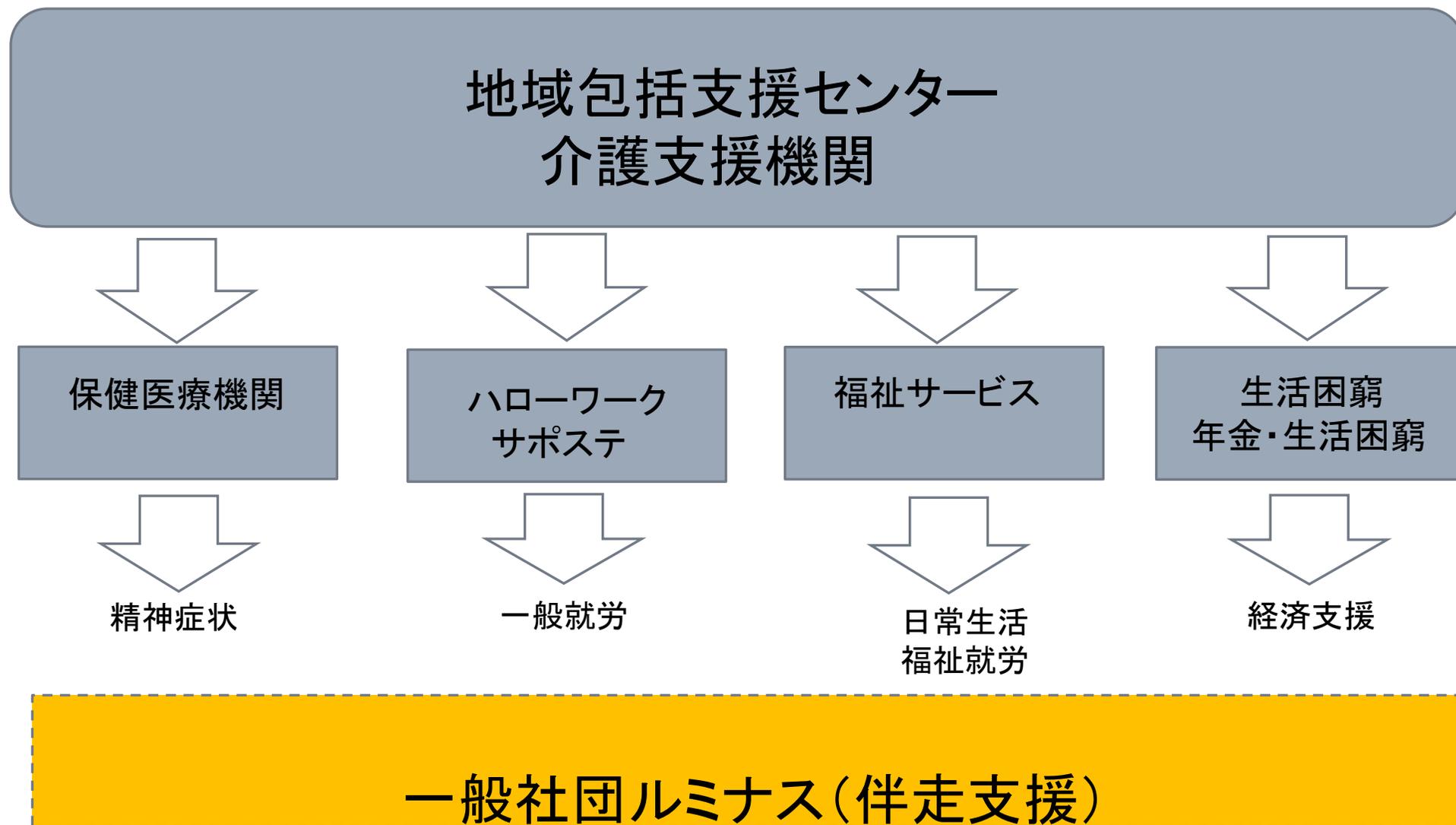
引きこもり当事者自ら相談に来られることは稀です、まずはご両親や関係者の方々のお話を聞かせていただきます。

4、家庭訪問

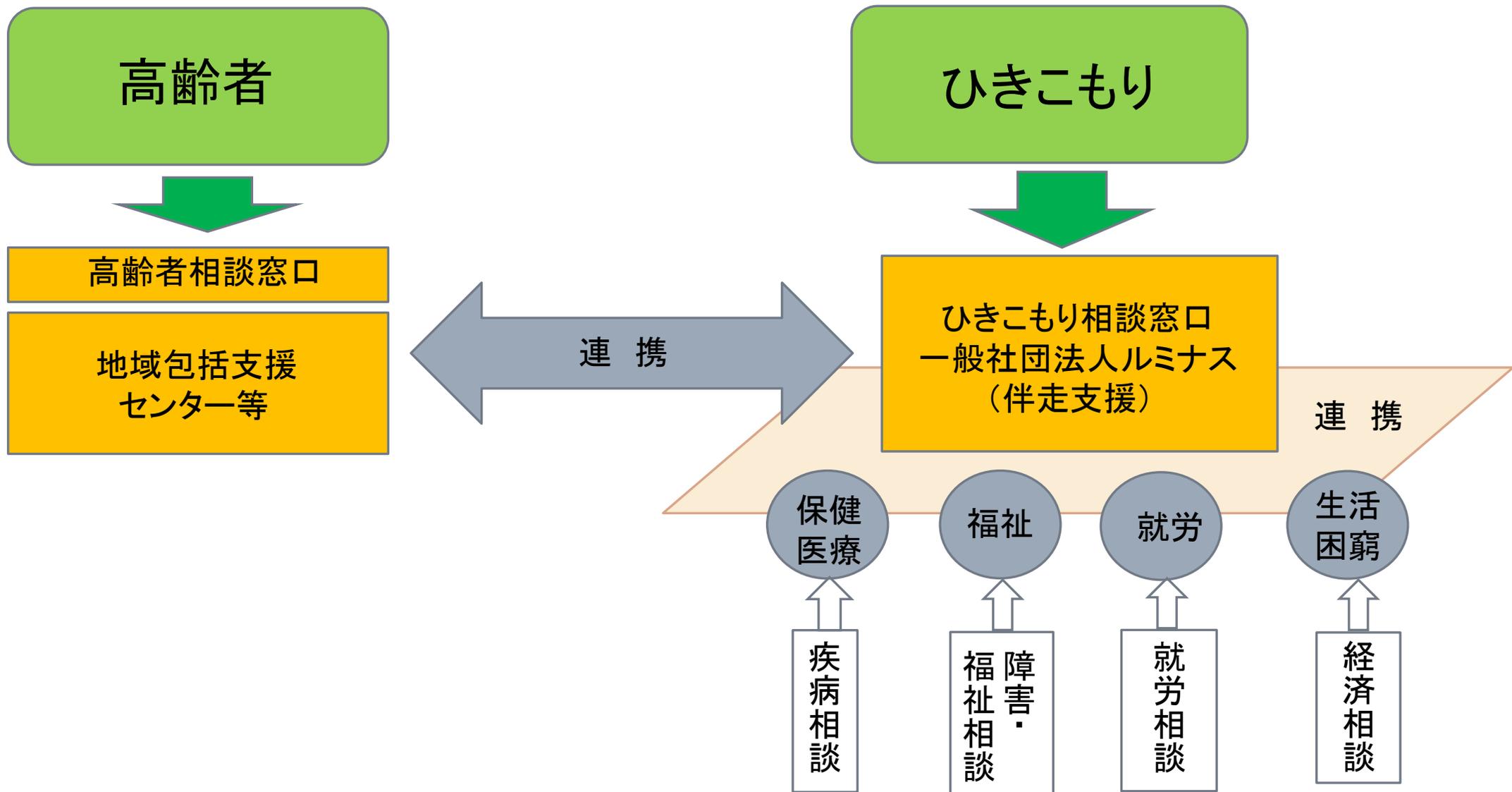
引きこもり状態にある当事者は当然のことながら自らこちらに出向いてこられることは困難です。私共は可能な限り、ご家庭に訪問し問題解決を行ってゆきます。

※一人ひとりに合ったオーダーメイド方式です。

引きこもりの窓口



地域との連携強化型



事業内容

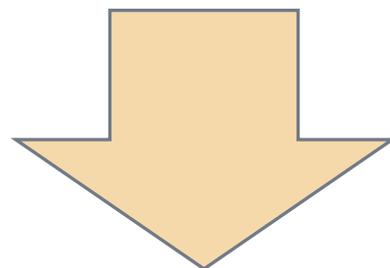
【地域との連携】

地域の困り事と引きこもりのマッチング(就労準備)



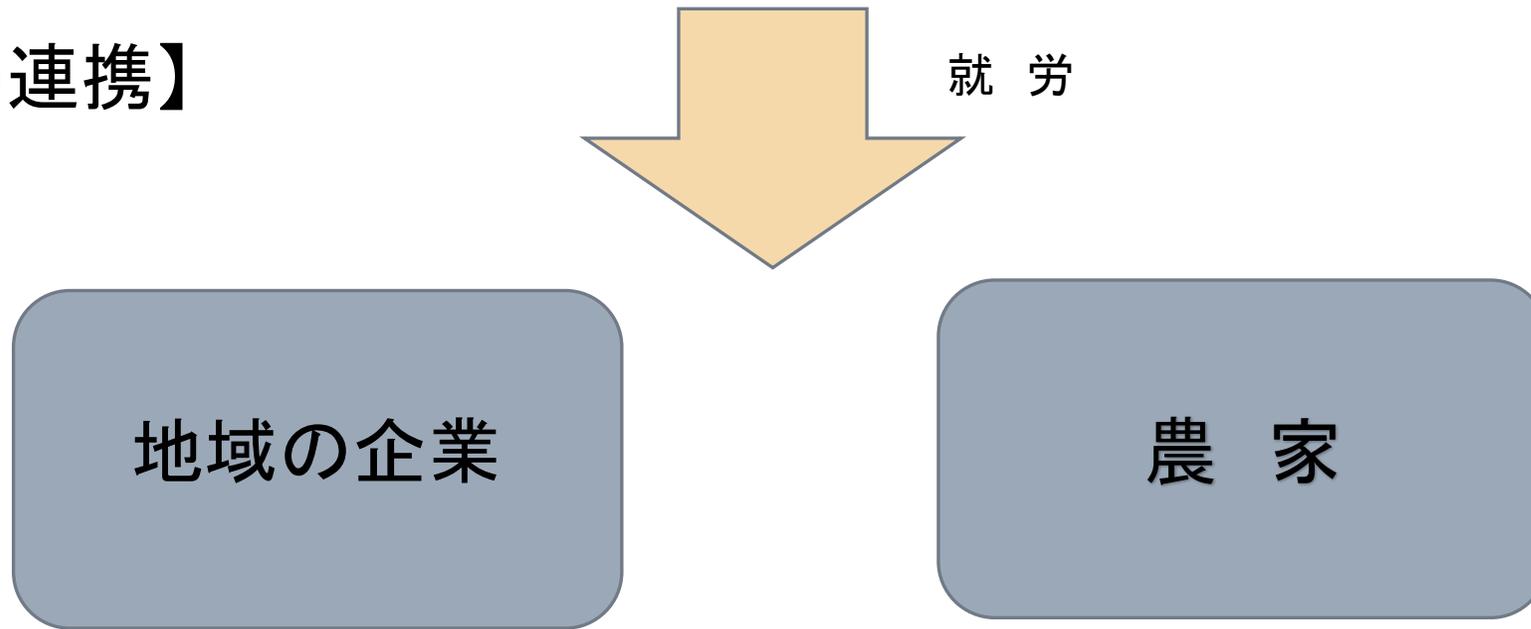
※地域通貨は、地域のお店で使える事
現金化するには70%の金額とする

※地域の困りごと
高齢者世帯の介護保険外のお手伝いや
農家のお手伝い、草取り、犬の散歩など



次のステップへ

【企業との連携】



- 地域の企業に就職することによって地域の活性化(若者)
- 農福連携
- 定着支援

事業内容

「ふりーすくーる りぼーん」の立ち上げ

「eスポーツで就労支援」

(1) eスポーツとは

エレクトロニック・スポーツの略。ビデオゲームを用いた対戦をスポーツ競技として捉えたもの。
日本の競技人口は390万人、観戦者数160万人とまだまだ浸透していない一方で全世界でプレイヤーは1億人以上、観戦者は3億8千万人と言われている。野球の競技人口3,500万人を遥かに超える競技人口を超える競技人口を有し、後のオリンピック正式種目の候補にも挙げられている。

eスポーツとは、真のバリアフリースポーツであり、バリアフリースポーツとは老若男女、身体の不自由に関係なく、誰もが平等に関わることが可能である。

クリエイティブかつバーチャル世界から現実世界への感動を届けるコンテンツとして、社会経済を支えていく時代にする。

eスポーツの発展→eスポーツで働くひとの増加→地域の創生

※スポンサーになって頂く企業は宣伝効果が得られる

(2) 事業目的

不登校の子ども達や、ひきこもりの大人達、障害者などの社会的自立を目的とする。

(3) eスポーツで得られるもの

・コミュニケーション力

4～5人でチームを編成し行うゲームが多く、コミュニケーション力が必要とされている。また、実際のスポーツと異なり、年齢、性別など関係なくチーム編成が行われるため、多世代交流が期待できる。

・思考力

ゲーム種目にパズルや戦略ゲーム、リアルスポーツゲームなど多種目があり、チームで勝つ為にどうすればいいかを考え、話し合う為に「考える力(思考力)」を身につけることができる。

・英語力

全世界で対戦するので英語(会話力)が必要となる。
(TOEIC等の受験)

※引きこもり生活から脱却するには“初めの一步”が難しいと思われるが、好きなゲームということでそのハードルが少しでも下がるのであれば、意外と効果があるのかもしれない。

ゲームをきっかけに通ってもらい、朝型の生活リズムに変える。就職に向けたサポートをする。

また、ゲームをプレゼンすることでプレゼン力、自己表現力、みんなで楽しむためのコミュニケーション力などが養われると考えられる。

・マネジメント能力

決められた時間、人数、道具、ルールなどの中で最大限に効果のある戦略や人材配置などを考えるため、管理能力を身につけることができる。

・資金力

世界のeスポーツ大会における優勝賞金は億円超えと、実際のスポーツ賞金を超える大会も続々と出てきており、いまや東京大学等の一流大学を出る人でも、eスポーツの業界で億プレイヤーとして活躍する道を選択する人もいる。

(4)プログラミング・動画編集学習について(就労準備)

現在、プログラミングや動画編集は、オンライン上で学習が可能となっており、施設に来て学習できる環境を提供する。(専任講師を用意し短期間で習得できる環境を提供する。)